

主担当部：環境森林部

（プログラムの目標）

県民一人ひとり、大学等研究機関、市町、三県一市（岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市）、国などが連携・協力して、陸域からの負荷軽減による海域の環境保全や生態系の回復など、伊勢湾をはじめとする閉鎖性海域を豊かで親しめる身近な海として再生するための取組を進めます。

（プログラムのねらい）

伊勢湾をはじめとする閉鎖性海域を豊かで親しめる身近な海として再生するため、水環境の保全・再生をはかるとともに、干潟・藻場・浅場等を保全・再生し、健全な生態系を回復します。

このため、三県一市と国、大学等研究機関などが連携して、長期的視野に立った施策の展開や研究に取り組みます。

また、県民一人ひとり、漁業者、企業、行政などのさまざまな主体が、閉鎖性海域を豊かで親しめる身近な海として実感・評価するとともに、その再生に向けた活動を連携・協力により展開していきます。

（プログラムの背景）

県内の代表的な閉鎖性海域である伊勢湾は、その存在自体がかけがえのない資源・資産でもありますが、近年、水環境の悪化、干潟・藻場・浅場の減少による自然浄化能力の低下、地域産業を支えてきた沿岸漁業の低迷、親水空間の減少等多くの課題も抱えています。

県では、これまで「伊勢湾再生ビジョン策定調査報告書」に基づく取組を関係部が連携して進めてきたところですが、2006年（平成18年）2月に三県一市と国によって「伊勢湾再生推進会議」が設立されました。2006年度中に「伊勢湾再生行動計画」を策定し、その取組を進めていくことになっています。

また、英虞湾においては、産学官連携により自然浄化機能の増進・活用技術の開発を進めており、伊勢湾の再生にも生かしていくことが期待されています。

このような状況をふまえ、今後は、県民一人ひとり、市民グループ、漁業者、企業、行政等の多様な主体が共通認識を持ち、新たな取組を進めることが求められています。

（プログラムの構成）

取組方向1：陸域からの汚濁負荷の削減に向けて

（県の取組）

- （1）流域別下水道整備総合計画を策定するとともに、関連市町と連携をはかり、計画的、効率的な下水道の整備を進め、伊勢湾の水質改善に寄与します。
- （2）農漁村における生活排水処理施設の整備を進め、伊勢湾および英虞湾の水質改善

に寄与します。

- (3) 集合施設の整備が困難な山間部や中小都市が散在する地域における浄化槽の整備を進め、伊勢湾の水質改善に寄与します。

(県が他の主体に参画を期待する取組)

市町は、生活排水対策の啓発と処理施設の整備の向上に取り組めます。
県民一人ひとりは、生活排水対策への理解を深め、処理施設の整備に積極的に取り組めます。

取組方向2：生態系の保全・回復による自然浄化能力の再生に向けて

(県の取組)

- (1) 干潟・藻場の長期的変化や貧酸素水塊の発生原因となる底泥の堆積状況を調査するとともに、生物生産性の高い干潟・藻場の造成や再生技術、赤潮の発生防止技術の開発を進めます。
(2) 干潟・浅場・藻場の造成や再生、富栄養化した底泥を浚渫(しゅんせつ)し底質を改善することにより、海の持つ自然浄化機能や多様な生物循環機能の再生をはかります。
(3) ノリ、アサリなどの資源量や生産量の増大をはかるなど生態系の保全や回復により海の自然浄化能力を高めることで、陸域から流入あるいは海底に堆積する栄養塩類の除去をめざします。

(県が他の主体に参画を期待する取組)

県民一人ひとりは、水質保全意識の向上に努め、藻場・干潟等の保全活動やその資源調査等に積極的に参加します。
漁業者は、閉鎖性海域における水産業の継続、適切な資源管理、調査研究への協力・成果の活用を行います。
国、大学等研究機関、漁業関係者等は、藻場・干潟、貧酸素水塊等に関する調査や研究に連携して取り組めます。

取組方向3：多様な主体の連携による環境保全活動の活性化に向けて

(県の取組)

- (1) 英虞湾における海域環境保全に関する研究の成果を生かして、閉鎖性海域の再生のための産学官の研究者等による研究交流を推進します。
(2) 「伊勢湾再生推進会議」において、「伊勢湾再生行動計画」のフォローアップを行いながら、多様な主体の連携による調査研究や普及啓発等に取り組めます。
(3) 「里海」伊勢湾を再生し、豊かな海の恵みを取り戻すために、県民が主体となった海の環境保全のための取組を促進します。

(県が他の主体に参画を期待する取組)

県民一人ひとりは、環境保全活動への積極的な参加と資源循環型のライフスタイルへの転換に取り組めます。
市民グループや漁業者は、環境保全活動に主体的に取り組めます。
小中学校は、総合学習の時間などを利用した海や生物等に関する環境学習に積極的に取り組めます。
市町は、市民グループや漁業者、企業等の自主的な活動を支援します。

平成19年度 みえの舞台づくりプログラム要求事業一覧

(単位：千円)

事業担当部名	事業名	施策番号 (資料の頁)	施策名	平成19年度 事業費
政策部	水産業による水質浄化機能の向上技術開発事業費	227 (p. 32)	農林水産業を支える技術開発の推進	4,500
政策部	干潟・藻場の回復・再生技術開発事業費	413 (p. 79)	水環境の保全	3,500
政策部	赤潮・底泥対策技術開発事業費	413 (p. 79)	水環境の保全	5,950
政策部	閉鎖性海域の環境創生プロジェクト研究事業費	413 (p. 79)	水環境の保全	18,000
政策部	閉鎖性海域環境研究センター事業費	513 (p. 98)	科学技術交流の推進	500
環境森林部	伊勢湾海域浄化槽整備重点促進事業費	413 (p. 79)	水環境の保全	468,901
環境森林部	伊勢湾再生事業費	413 (p. 79)	水環境の保全	4,010
農水商工部	伊勢湾漁場環境浄化型漁業推進事業費	223 (p. 24)	農水産業の持つ多面的機能の維持・向上	6,000
農水商工部	「みえのうみ」環境保全活動促進事業費	223 (p. 24)	農水産業の持つ多面的機能の維持・向上	14,000
農水商工部	閉鎖性海域再生のための漁場環境保全創造事業費(公共事業(閉鎖性海域再生))	226 (p. 30)	安全で安心な水産物の安定的な提供	790,000
農水商工部	団体営農業集落排水整備促進事業費(公共事業(閉鎖性海域再生))	532 (p. 113)	元気で魅力ある農山漁村づくり	672,979
農水商工部	団体営農業集落排水整備支援事業費(県単公共事業(閉鎖性海域再生))	532 (p. 113)	元気で魅力ある農山漁村づくり	112,199
県土整備部	流域別下水道整備総合計画策定費	541 (p. 117)	快適な都市環境の整備	25,000
(事業 計)				2,125,539

